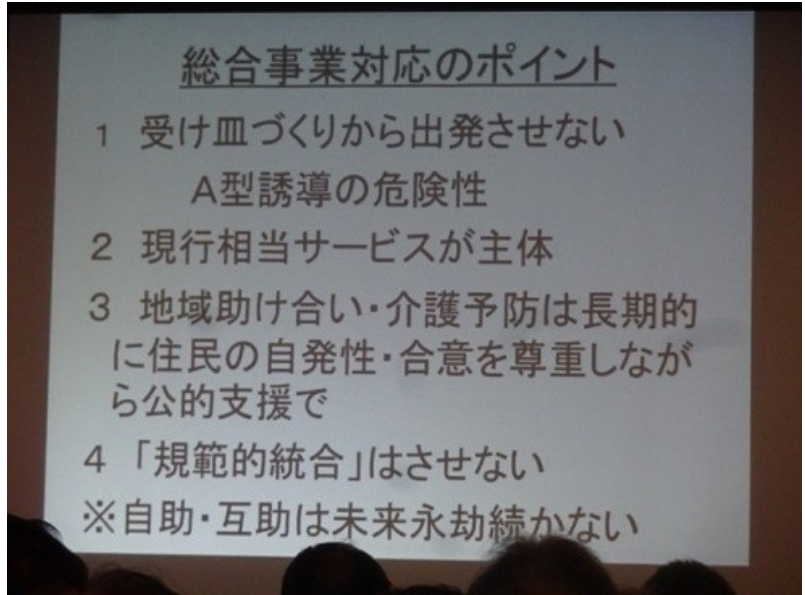


# 新総合事業で「事業所経営が悪化」、「利用者にも戸惑い」 新潟県社会保障推進協議会が実態調査報告



- 総合事業対応のポイント**
- 1 受け皿づくりから出発させない  
A型誘導の危険性
  - 2 現行相当サービスが主体
  - 3 地域助け合い・介護予防は長期的に住民の自発性・合意を尊重しながら公的支援で
  - 4 「規範的統合」はさせない
- ※自助・互助は未来永劫続かない

この4月から始まった新総合事業にどう立ち向かうかを学ぶ学習会が12日、新潟テルサ県社会保障推進協議会の共催です。県内の介護保険事業所職員、自治体議員、地域包括支援センター職員など165人が集まりました。半分は事業所職員さんたちだったということです。介護保険学習会でこれほど事業所の方が集まったのは、参加者のみなさんがそれだけ新総合事業に強い不安や悩みを持っておられるからだと思えます。

第1部は総合事業調査報告。にいがた自治体研究所介護保険研究会会長の上杉あさ子さんと新潟県社会保障推進協議会事務局長の新倉順さんが報告してくださいました。

上杉さんは、「どの自治体もたいへん戸

惑っている、新総合事業を開始、準備しているところもいわば手探り状態だ」「各自治体によって新総合事業への対応のスタンス、内容とも違いがあり、どのような制度になつていくかは自治体の対応いかん」「国の示すガイドラインに準拠するか、地域の事情、これまでの取組を踏まえて、サービスを水準を維持しようとするかで大きな違いが出る」ことなどを明らかにしました。

新倉さんは、7月から2か月間取り組んできた「事業所の総合事業対応状況アンケートのまとめ」を報告しました。この中で注目したのは4月から全面实施している上越市内の事業所の実態です。「緩和された利用者の方たちを受け入れることで報酬が下がることになり、経営が悪化している」「あまりにも報酬が変わったため、事業所としては本音は参入したくない。しかし、いままです提供していた利用者様を放り出すことはできない。今後、割合か、緩和Aが増加していくと事業所としての運営が難しくなることが不安です」

「基準が曖昧で書類などどこまで整備するべ

きかわからない。チェックリストの判定基準が包括支援センターにより変わり、事業所も利用者も戸惑うことが多い」など深刻な訴えが記されていました。

第2部は大阪県社会保障推進協議会の日下部雅喜さんの講演です。「介護保険改定で問われる地域・自治体の課題と展望」と題する講演は、途中休憩をはさんで約2時間にも及ぶものでした。日下部さんは自治体で介護保険担当されている方で、制度の仕組みも現場の実態もよくご存じの方なので、とてもわかりやすく、いい勉強になりました。課題として提起された、①サービスの単価と種類をどうするか、②利用の「入り口」の手続きをどうするか、③サービスの「選択」「卒業」をどうするか、などはとても参考になりました。日下部さんの講演は録音させていただきます。

ので、もう一度聴いてから、整理してお伝えする予定です。お待ちしております。



【ゲンノショウコ】フウロソウ科の多年草。漢字で「現の証拠」と書きます。わが家の庭の端っこで見つけました。薬効があるということで広く知られています。小さな白紫色の花で、かわいらしい。西日本では紅紫色の花もあるとか。



戦争法案廃案の訴え各地で続く。写真は蒲川原。

はしづめ法一の  
活動レポート

No.1724 2015.9.20

発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一 検索



# 春よ来い

## 第三七二回 四七年ぶりの再会

文化会館中ホールで開かれた先日のコンサート。開演と同時に、ピアノの演奏に合わせ二人の女性が「姉妹」を歌い始めました。一番が終わらないうちに、歌い手の表情を追い続けていた私の目からは涙が流れ続け、困りました。

コンサートは小柳美奈子さんのピアノ演奏、一色菜穂子さんと八重澤（旧姓平井）克子さんのデュエット（二重唱）を楽しむ会です。三人のうち、小柳さんと八重澤さんは高田の出身で、八重澤さんは私の高校時代の同級生です。私はコンサートを聴くのも楽しみでしたが、何よりも克子さんに会いたいと思っていました。

克子さんとは高校を卒業した年に、東京で一度会っただけです。四七年も会っていないのですから、歳を重ねるうちに顔かたちも変わっているかも知れない、わかるだろうかと心配していました。でも歌を歌い始めてすぐに克子さんであることを確認できました。顔を少し上向きにしてしゃべる、目をくりつとさせて驚いた表情を見せる点など、高校時代とほとんど変わっていないからです。

私が克子さんに会いたいと思ったのには理由があります。昨年の秋、私の事務所の書類を整理していたときに克子さんからの手紙の束を見つけたのです。手紙は丁寧な文字で書かれていて、一〇数通もありました。その多くは私が大学へ進学してから一年間に集中していました。

手紙を見て思い出したのは、この時期、私は人生上の悩みをいくつもかかえていて、その相談を克子さんにしていたことでした。手紙は私の相談についての返事だったので、私は手紙の束を見て、「こんなにもお世話になっていたのか」と思いました。そしていつか会ってお礼を言いたいと思っていたのです。

その機会は意外と早くやってきました。コンサートの数日前、私は、市内在住の同級生・M子さんから電子メールをもらいました。メールはコンサートの案内でした。そこには「文化会館において、同期の平井克子さんがステージに立ちます。お時間のある方、懐かしい姿を見たい方はぜひ聴きにいらしてください」と書かれていました。私は「なんととしても出かけなければ……」と思いました。

コンサートでは、ドイツの歌、日本の歌を一〇数曲聴きました。一色さんと克子さんのデュエットはもう何年も前から続いているのでしよう、息がぴったりでした。印象に残ったのはコミカルな声と動きです。アンコール曲で、二人が「にやーおんあーおん」「にやーおん、にやーおん」と歌ったとき、会場は笑いの渦に包まれました。

歌い終わった後、克子さんはマイクを握り、「きょうはこんなにたくさんの人に来ていただいて幸せです。たぶん二度とないでしょう」と言って、また笑わせました。そして、「きょうは私の同窓会みたい。同級生の方、手をあげてみて……」そう呼びかけると二〇人ほどの人たちが手をあげました。うれしかったでしょうね。克子さんは「ここで演奏できてよかったです。ありがとうございます」と挨拶しました。

コンサートが終わると、ロビーには同級生に囲まれた克子さんの姿がありました。もちろん、私もそこにいました。克子さんが私に眼を向けたとき、私から「わかります？」と言うと、二秒ほど置いて、「あつ、わかった、橋爪君だ。いやーもう、文通の……。すごい久しぶりね」と言いました。

四七年ぶりの再会。忘れていても不思議ではないのに、克子さんは青春時代の私とのかつを憶えてくれていたのです。私は感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

## 平和を願う気持ちが高揚しているなか上越市で県母親大会開催

13日は新潟県母親大会でした。上越市での開催は11年ぶりということでしたので、私も参加してきました。けっこう男性の参加者がいましたね。

午前の分科会では、児童文学作家、杉みき子さんの「詩歌の中の平和」という話を聴いてきました。私は短歌も俳句も詩もやりませんが、杉さんの解説を聴いて、なるほどなと思う作品ばかりでした。「戦争が廊下の奥に立ってゐた」（渡辺白泉）、「あらがひの声もあれども着々と誰を撃つべき砲をととのふ」（斉藤史）などは強く印象に残りました。石垣りんの「崖」、茨木のり子の「わたしが一番きれいだったとき」などの詩は、もう一度読んでみたいなと思いました。

午後からは全体会でした。会場は希望館大ホールでしたが、入りきれなくて第2会議室、1階、2階のロビー

でスクリーンを見ることになった人たちがたくさんいました。私もそうです。全体で700人を超える人が参加されたそうです。戦争法案が近々採決されかねない状況であることから、「戦争をしない国」を守ってこうという意識がとても強くなっている気がしました。

記念講演は闘う弁護士、飯田美弥子さん。「八法亭みややっこ」の名前で落語調の憲法講義をやり、全国で引っ張りだこの人です。この日も「歴史に学び、未来を志向する日本国憲法」と題して、明治憲法と現憲法の違い、集団的自衛権の問題などについて軽快に語り続けました。



### 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16  $\mu$  Sv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月9日(水)	9月16日(水)
上越南消防署	0.043	0.047
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.047	0.043
頸北消防署	0.060	0.053
頸南消防署	0.057	0.043
東頸消防署	0.043	0.046
高士分遣所	0.053	0.043
名立分遣所	0.060	0.060